

式辞

春弥生、早春の息吹がそこそこに漂うこの佳き日に、高野本匠振興局長様をはじめ、多くのご来賓の皆様のご臨席を賜り、平成23年度佐伯市立本匠小学校第6回卒業証書授与式を挙行できますことを、深く感謝し、厚くお礼を申し上げます。

さて、六年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。今、皆さん一人一人にお渡ししました卒業証書は、「小学校6年間の学習を立派にやりとげた」という証です。その中には、6年間の学校生活の中で、学んだことや培ったことのすべてが込められています。いつまでも大切にしてほしいと思います。

平成18年4月、本匠西小学校と本匠東小学校が統合して、新しく本匠小学校として生まれ変わりました。皆さんは、その年に入学しました。本匠小学校第一期入学生です。そして、学校とともに成長され、本校の伝統を築いてきました。

特に、この最後の1年間は、学校行事、ファミリー清掃、委員会活動などで下級生をしっかりとお世話し、上級生としての責任を立派に果たしました。

幼小・中合同運動会では、幼稚園生や下級生を上手にまとめ、中学生と力を合わせてがんばろう、とリーダーシップを発揮しました。皆さんの活躍に、運動会テーマ「絆」を感じることができました。

台風接近のため、延期になった修学旅行では、友だちと一層友情を深めるなど、たくさんの忘れられない思い出をつくってきました。

また、小・中一貫教育研究発表大会で、6年生外国語科の授業の様子をお客様方に見ていただきました。小1から積み上げてきた英語学習の成果に、多くの方々が驚いていました。

その他にも、ここでは語りきれないほど多くの活躍がありました。そして今日、小学校の勉強を終えようとしています。

今、新たな決意を固めて中学校に進もうとしている皆さんに、いつまでも覚えていてほしいことをお話しします。

それは、「夢や目標を持ち、その実現に向けて努力し続ける、Yes, we can!」ということです。

忘れもしない2011年7月18日。なでしこジャパンは、サッカーワールドカップ初優勝という歴史的快挙を成し遂げました。あきらめない心と粘り強さで優勝を勝ち取り、そのことが、被災地である東日本はもちろんのこと、日本中の人々に元気を与えてくれました。いろいろな行事が自粛される中、東日本大震災に、日本国民一人一人がどう向き合えばよいのかを示したできごとでもありました。

なでしこジャパンが私たちに伝えてくれたことは、感動とともに「思い続けて努力を重ねていけば、どんな環境にあってもいつか夢はかなう。諦めないで。」ということでした。なでしこジャパンの澤穂希選手は、夢をかなえるまでの道のりを、ご自身がお書きになった本に次のように述べていますので紹介します。

私は、夢をかなえるためには、夢のレンガを積む作業が欠かせないと考えています。夢のレンガとは、自分の足元に自分で積み上げるものです。自分が立っている地面に、一日一段、レンガを積むんです。翌日は、その自分で積んだレンガの上に立って、また一段、新しいレンガを積むんです。そうして一段ずつ積み上げていけば、ずっと先にある夢は『高い壁』ではなくて、『階段』になっているはずなんです。壁は一気に乗り越えられなくても、階段だったら上がれそうだなと思いませんか？（澤穂希『夢をかなえる。思いを実現させるための64のアプローチ』徳間書店、2011年、65頁）

こんなことは無理だ、自分にはどうせできない、とあきらめてしまわないで、夢のレンガを積み上げていける人になってください。皆さん一人一人が、立派な大人という金メダルに輝くことを大いに期待し、楽しみにしています。

保護者の皆様、お子様のご卒業、おめでとうございます。この六年間には、楽しいことだけではなく、苦しいこと、辛いこともあったことと思います。しかし、どんな時にも変わることなく本校の教育活動にいつも深いご理解とご協力、ご支援をいただきまして本当にありがとうございました。

最後になりましたが、ご来賓の皆様、本日はご多用のところ、ご臨席を賜り、まことにありがとうございます。12名の卒業生を在校生同様に温かく見守っていただき、今後とも変わらぬご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

本日、本匠小学校を卒業する12名が、輝かしい未来に向かって力強く前進することを祈念し、式辞といたします。

平成24年3月22日
佐伯市立本匠小学校
校長 中村 斉